

議会だより

NO.9

 吉野川市



吉野川市の眺望（市の木・花・鳥）

目次

代表・一般質問 ……………P 2	議案の審議から ……………P13
市民のページ ……………P12	市民の皆さんへの募集 ……………P16
クイズ ……………P12	

■ 発行／吉野川市議会 ■ 編集／議会広報特別委員会
■ 住所／〒776-8611 徳島県吉野川市鴨島町鴨島115番地 1
■ TEL.(0883)22-2241 ■ FAX.(0883) 22-2242

2007.2.25

代表・一般

ここが聞きたい

質 問

12月議会定例会では16名の議員が代表・一般質問を行いました。

●の質問を中心に取り上げました。

代表質問

- ①田村修司議員
○障害者自立支援法について
○教育委員会のあり方について
○吉野川市が予算補助をする吉野川市社会福祉協議会に対する指導について

一般質問

- ②谷田義一議員
○財政計画について
○農業振興について
○河川改修について
③枝澤幹太議員
○次世代育成支援について
○行財政改革について
○産業・観光の振興について
- ④福岡正議員
○国道192号「道の駅」の整備について
○老朽化した教育施設や給食センターの建て替え及び整備について
○県管理河川の学島川の延伸改良工事について
- ⑤玉水好夫議員
○団塊世代の受け入れと吉野川市の活性化促進について
- ⑥兼原五男議員
○鴨島大菊人形、菊花展開催場所について
- 合併特例債について
○知恵島公民館について
○高校再編について
- ⑦河野利英議員
○総合運動公園建設について
○観光行政について
○林業行政について
- ⑧細井英輔議員
○ごみ収集について
○幼稚園のあり方について
- ⑨中山郁子議員
○いじめ問題について
○子育て支援について
- ⑩岡田光男議員
○上水道再開栓手数料について
○市営住宅について
○公民館使用料について
○同和事業について
- ⑪後藤田哲夫議員
○ごみ処理施設について
○中央広域環境施設組合の一般廃棄物収集運搬使用車両について
- ⑫岸田秀樹議員
○防災対策における駅前再開発について
- ⑬工藤俊夫議員
○インターネット事業について
○県道板野川島線の進捗状況について
- 市道の舗装について
○養護老人ホーム天寿荘の民間移管後の有効活用について
○国道318号改良促進協議結果について
- ⑭増富義明議員
○教育施設の早期改築について
○幼稚園教育について
○下水道事業について
- ⑮近久善博議員
○合併特例債について
- ⑯藤原正議員
○中山間地域総合整備事業について
○学校教育について
○吉野川市副市長定数条例について

代表質問

田村修司 議員

(清友会)

小学校教育での適切な競争原理の導入は(質問)

教師や親の意識改革が必要(答弁)

◎質問 昨今の小学校での教育を見てみると、いろいろな面で、一人ひとりの児童の能力の違いというものを、できるだけ表面に出さないようにしているのではないかとと思われる。例えば、徒競走を取りやめ、リレーだけにし、走るのが遅い児童は50メートル、速い児童は150メートル走らせた、遅い児童にはワープをさせたりして、ゴールするのが同時になるようにしたり、テストにいたっては全員が100点を取れるような問題を作ったりする学校があると聞く。また、通信簿にいたっては、評価が絶対評価であるがために、全員が100点を取ると全員が

三段階評価の一番良い三重丸を付けてもらえるとすることになる。加えて所見欄では児童の優れた点のみ言及し、弱点には触れないようになったと聞く。そこで、吉野川市にある小学校の現状は。

○教育長 テストは教科の目的に沿って指導を進め、どれだけわかったか、あるいは教師の指導の仕方に活用するためにあるのであり、レベルを下げたというの間違ってると考えられる。また、通信簿等で弱点をあまり書かないことがあるが、とにかく良いところを認めて伸ばそうというのが現在の教育のやり方、大きな流れなので、その方

向で進めている。運動会については、景品はないと思うが、ゴールし、横を見たらわかるような順位のつけ方をしているところがほとんどである。

◎再問 今年ある小学校の運動会をのぞいてみると、学校のガラスいっぱいに「勝っても負けても一等賞」と大きく書かれていた。それを見たときに教育長が答弁したことは少し逆行しているのではないか。個性を伸ばす教育こそが現在の学力

低下、運動能力の低下、いじめをなくす一歩につながるのではないか。総合的な見解は。

○市長 個性を生かすという問題については、教師や親の意識を改革しなければならぬということもある。また創意ある教育活動を展開して、子ども一人ひとりの可能性を伸ばしていくということが大変重要に思われる。特に各学校での特色あるやり方を吉野川市でもやっていきたい。



運動会風景（本文とは関係ありません）

【その他の質問】

◎質問 障害者作業所運営について、来年度の補助金はどうなっているのか。

○答弁 これまでの補助金が確保できるよう作業所と共同し、努力していく。

◎質問 吉野川市社会福祉協議会改革の進捗状況は。

○答弁 現在プロジェクト会議を立ち上げ、行政と社協のあり方を探る議論を深めているところである。

谷田 義一 議員 (麻植会)

まちづくり計画は実現可能か

市税の増収やむだ遣いをなくす

◎質問 市の財政計画の中で人件費、扶助費、公債費等の義務的経費の多くが起債で補われている。投資的経費について市税等の自主財源の大幅増収は見込めない。市の財政の硬直化が進み、普通建設事業費など投資的経費を抑制しなければならぬ。合併時に住民に約束をした、まちづくり計画が実現できなくなるのではないか。

○総務部長 平成18年度予算額、歳出188億円のうち人件費は42億円、扶助費は25億円、公債費23億円となり、歳出全体の48・6%を占めている。今後の予測として、人件費は行財政改革を進めることにより徐々に支出額が抑制されるものと考えている。扶助費については、高齢化社会を迎える。公債費については、今後の建設事業の進め方

【その他の質問】

にもよるが、合併特例債が活用できる平成25年度ごろまで微増していき、その後は徐々に減少していくと考えている。市税や自主財源の確保、むだを省くなども十分検討し、まちづくり実現に努めたい。

◎質問 地域農業振興のための担い手育成プランは。

○答弁 「アクションプログラム」を策定し団

塊世代の就農への促進やブランド品目の確立等取り組む。

◎質問 ほたる川、川田川の今後の改修事業は。

○答弁 ほたる川については、徳島県中央部開発促進期成同盟会の中で排水機場の設置及び河川改修の要望をする。川田川については早期に防災計画を県に立ててもらおうと要望する。

枝澤 幹太 議員 (薫風会)

次世代育成支援は

子育て支援検討市民会議の中で協議

◎質問 子供たちをとりまく環境の変化に伴う子育ての不安を早く解消し、安心して子育て教育ができるまちづくりを、行政と市民が手を携え実現させなければならぬ。次世代を担う子供たちの育

成支援について、吉野川市としてどのような施策を考えているのか伺いたい。

○健康福祉部長 幅広い分野の方々から意見を募り、限られた財源資源の中で地域の実情と時代の

流れを踏まえた子育て支援の充実を実現できるように「子育て支援検討市民会議」を立ち上げたばかりである。その中で協議を重ね吉野川市として対応していきたい。

ハード面での環境づくりの具体策については、国、県、市とも厳しい財政状況下の中、知恵とアイデアを絞っているが、今後の課題としたい。

「その他の質問」

◎質問 平成18年度の各

分野での改革の現状は。

◎答弁 指定管理者制度の導入や各種委員会の女性登用、定員の適性化などに取り組み成果を挙げた。

◎質問 善人寺島の有効活用は。

◎答弁 善人寺島ブランドの商品の開発を、財政的な面も考慮しながら進める必要がある。



健康福祉部発行の「はぐくみ」冊子

◎教育次長 昨年度実施した耐震化優先度調査の結果や、老朽化の著しい木造校舎、個別事業の緊急度や必要性を十分考慮に入れながら、合併特例債が活用できる平成19年度から平成25年度までの7年間に耐震診断、改築、耐震補強等、順次実施できるように策定したいと考えている。

◎再問 2年もたつて、まだ市として教育施設の整備の方針が立てられていないとはどういうことか。
◎市長 老朽化している施設がたくさんあり、その優先度もある。いずれにしても早急に整備が必要な山川中学校、川島中学校体育館、学校給食セ

一般質問

福岡 正 議員

早急に教育施設の建て替えを

(質問)

条件をクリアし方向性を出す

(答弁)

◎質問 合併して2年が過ぎた。合併特例債をフルに活用した市の将来展望を打ち出し、次世代を担う子どもたちの教育施設整備を最優先すべきと考える。老朽化した教育施設や給食センターの建て替えの今後の方針、方策を伺う。

また、山川中学校、川島中学校体育館、学校給食センターの建設については、緊急性や必要性から早急に建設等の準備を進めていきたい。

合併特例債を有効活用できる方法については、財政当局や関係機関と十分協議しながら検討したいと考えている。

「その他の質問」

◎質問 地場産業や観光の振興のためにも、「道の駅」の整備を推進すべきと考えるが。

◎答弁 約700メートルが改修済みで進捗率は約43・8%だ。あとは川島土木事務所に強く要望する。

ンターについては、種々の状況の条件をクリアし次第、できる限り早く方向性を出したいと考えている。

用地と事業費を勘案すると現時点では困難と考える。

◎質問 学島川の延伸改良工事の進捗状況は。



改築が急がれる川島幼稚園

玉水好夫 議員

団塊世代の受け入れは

(質問)

市の活性化につながるよう取り組む

(答弁)

◎質問 団塊世代の全国の人口が700万人ともいわれており、'07年には大量退職があり吉野川市へUターンも期待される。団塊世代の移住促進の施策として県の示した「移住交流支援センター」の設置に対応し、団塊世代の人たちの豊富な知識、技術、経験を生かし、吉野川市の活性化につなげていくべきだと考えるが、今後のとりくみなどを伺いたい。

◎再問 空き家に関する情報提供をしたり、あつせん後の改築費用を援助するなど住宅支援対策はあるのか。

◎再問 空き家に関する情報提供をしたり、あつせん後の改築費用を援助するなど住宅支援対策はあるのか。

◎総務部長 空き家情報あるいは地域内での生活相談などの支援についても今後積極的に進めていきたい。

◎市長 県と歩調を合せながら創意工夫を凝らし、この対策について頑張っていきたい。

がかりすぎるといふ事で存続ができなくなり、ほとんどの企業・自治体で開催中止になり、西日本では当市の鴨島町だけで開催されている。一か月で3万3千人の人が見にくるイベントであるが、町の活性化にあまり役に立ってないように思う。菊人形・菊花展を駅前にもつてくる事により商店街もにぎわい、町の活性化になるのではと思うが駅前を移す考えはないか伺う。

人形は長い歴史と伝統があり、吉野川市の貴重な財産として、また活性化の素材としてすばらしいものだ。今後も継続していかねばならないと考えている。過去にいろいろ検討した結果、現在の場所になっている。菊花展は、駅前商店街を中心に開催すれば駅前の活性化にはつながると思うが多くの問題点があり、現状では難しいが実行委員会と協議し一部でも設置できるよう検討したい。

な問題を含めそれを解消するため中心市街地活性化を行政主導でやるべきと思うが、市長の見解を伺う。

◎市長 地権者との合意、また地元のやる気もあるのでなお検討したい。

◎質問 合併特例債で基金造成を行なう考えは。

◎答弁 財政当局と十分協議し重要課題として取り組む。

◎質問 学校再編で鴨島商業高校存続の要望は。

◎答弁 地域の振興を図るため十分検討したい。

◎質問 知恵島公民館建設は。

河野利英 議員

林業への支援を

支援策を検討する

(質問)

◎質問 吉野川市の面積の55%が森林で覆われている環境の中、私たちが日常生活を送る上で多くの森林の機能、水源涵養、自然災害の防止、自然環境、生活環境を守る木材の供給、地球温暖化の防止、保健休養の場の提供などの影響を受けている。

この機能を維持していくためには林業の活性化が不可欠であると考え。吉野川市においては間伐補助金、搬出補助金の利用、また高性能林業機械を使用するの除伐・間伐の事業が進められていて、山林所有者の収入を上げていくように取り組んで

栗原五男 議員

菊花展の開催場所は

(質問)

一部でも商店街に設置できるように検討

(答弁)

◎質問 鴨島大菊人形・菊花展は今年も本庁舎前で開催し、たくさんの人

が見物にきている。全国各地で開いていた菊人形、菊花展は財政難の中、金



庁舎前の菊花展



美郷地区の間伐作業

いると聞いている。そこで三点伺う。
一、現在市単独の搬出補助金は、間伐材を対象にして、45年生、直径が3センチ以下との決まりがある。今後県では、19年度から新規事業として、46年生から90年生までの材を間伐対象として長期育成循環施策を推進し同じように補助対象とするそうであるが、市としても県と同じように搬出補助金の対象とするべきだと考えるのいかがか。
二、木材の需要拡大に向

けて、木造住宅の推奨や現在計画を進めている山川中学校校舎、川島中学校体育館、給食センターの新築工事には、木造並びに木材を多く使うような設計にして、木材の需要拡大を進めるべきと思うのいかがか。
三、木材の地産地消を進める上で当地域では施設整備等が不十分であると思う。民間の力不足を補う強力な支援が必要と思うのいかがか。
○産業経済部長 一、市

としても支援ができるかどうか今後検討していく。
二、木造住宅の推奨や学校の木造建築については関係部署と今後協議をする。三、施設整備等については、国の補助要件等を満たす団体が取り組むのであれば支援策等を検討したい。

【その他の質問】

◎質問 防災機能を備えた総合運動公園の建設に向けて、早急に計画の策定に取り組むべきでないか。

◎答弁 グリーンツーリズム等は有効であると考え。新たな観光振興策を関係団体と協議する。

◎答弁 必要性は十分に認識している。実現可能なためのいろいろな努力をしていきたい。

◎質問 自然を観光資源として活用し、グリーンツーリズム等を取り入れるはどうか。

細井英輔 議員

全幼稚園で預かり保育を

慎重に対応したい

(質問)

◎質問 現在、鴨島幼稚園では16時まで預かり保育を実施しているが、その他の幼稚園もできないのか。また、保育所と同じ17時30分まで預かり保育をする計画はないのか。

◎教育次長 幼稚園の状況、保護者のニーズ、幼児の健やかな育成を十分配慮し、家庭にも十分説明しながら柔軟に対応することが大切であると考

預かり保育の実施についても検討課題としたい。

◎再問 5歳まで保育所に行く子と4歳から幼稚園に行く子と分かれる。4歳から幼稚園に行く子は、夢を膨らませて入園する。しかし、家庭の事情で5歳まで保育所に行く子は、「何で自分は保育所なん」と聞いてくる。と保護者は言っている。市の財政難はわかるが、保育所は3歳まで、幼稚園は4歳から5歳まで2年とし、17時30分まで預かり保育はできないか。



鴨島幼稚園の預かり保育

◎第二助役 保護者側のニーズ、子どもの思いもあると思うが、子育て支援の本性を少し掘り下げて考えてみる必要があると感じている。子育て支援の市民会議で広く議論をしたい。

◎再々問 保育所、幼稚園のあり方を早く協議検討し、子育てする人たちが子供にも優しい市にしてほしい。

◎市長 「子育て支援検討市民会議」で議論し、今後子育て支援のあり方

について慎重に対応したい。

[その他の質問]

ミの戸別収集はできないのか。

◎質問 ひとり暮らしの老人や障害者に対し、ゴ

○答弁 できる限り配慮し、収集に努めたい。

中山郁子 議員

いじめ相談窓口の設置を

1月に開設予定

(答弁)

(質問)

◎質問 最近、いじめを苦にした児童、生徒の自殺などが大きな社会問題となっている。県内の公立小、中、高校で確認されている件数が269件と報道されていた。本市の報告では小学校で2校の2名、中学校では3校で3名。現在は全部解消しているとの事だが、水面下ではどれだけの人が悩んでいるか計り知れない。そこで、いじめ及び不登校などで悩んでいる児童・生徒、保護者、教員を問わず利用できる相談窓口を設置してはどうか。

○教育長 来年度から仮に教育相談室と銘打ち、設置し、いじめ、不登校、その他交友関係、家族関係、いろいろ困っている出来事について早期発見、早期防止に努めたいと考えている。また、連携を学校とより一層密にし、学校と教育委員会の中でしっかり考えを突き合わせ、悩みやいじめの解消に取り組みたいと思っている。

◎再問 先日の徳島新聞の声の欄に、いじめで悩んでいた13歳の中学生の声が出ていた。その中

「今悩んでいる人に言いたいです。まず、だれかに悩みを打ち明けてください。一人では思いつかない方法が見つかるはずですよ。どうか死ぬことしなさい。絶対にだれかが解決法がないと思いつかないで。絶対にだれかが助けてくれます。僕は今、学校が楽しいです」とあった。

相談室はオープンにして気安く、肩を張らずに行ける窓口を設置すべきと思うが考えを伺う。

○教育長 1月から準備したい。



授業風景 (本文とは関係ありません)

室を設けて教育研究所の中に設置する予定である。

[その他の質問]

◎質問 親への支援を行うのが特徴の「認定こども園」の開設の考えは。

○答弁 子育て支援全体の中で教育委員会と連携を取り協議したい。

◎質問 ファミリーサポート事業の状況は。

○答弁 今後の課題として。

岡田光男 議員

水道再開栓に2万円は高い

(質問)

今後検討したい

(答弁)

◎質問 水道を止めていたのを再び使用する時にかかる費用、再開栓手数料であるが、合併時に旧鴨島町にあわせて2万円となった。他県の自治体を調べてみると、大体500円から2千円である。

隣の阿波市では合併前に市場町が8千円だったが、他の町が無料だったので合併と同時に無料にしたという。2万円もする自治体はないと思うが、近隣の自治体はどのようになっているのか伺う。

○水道部長 美馬市が手数料500円を徴収している以外、県内においては再開栓手数料制度の運用はどの自治体もしていないと聞いている。ただ、料金改定では議

◎再問 ほとんどの自治体が無料であるが、17年12月議会で承認されているから妥当であるという答弁だが、定率減税や老年者控除の廃止で住民税や所得税が大幅に増えている。市がこうした時期、市民に少しでも負担を軽くすることが市民サービスと考えるが、再度伺う。

○水道部長 合併をし中期計画を策定したばかりについては今後検討するというところで理解を願いたい。

◎再々問 阿波市でできている事が、合併一番乗りの吉野川市でできない

はずはない。無料化に向けての市長の決意を伺いたい。

○市長 中・長期水道ビジョン作成の中で無料化についても検討していきたい。

【その他の質問】

○質問 市営住宅、長期に渡る空き家は。

○答弁 規定に反せば速

後藤田 哲夫 議員

ごみ処理費用の経費削減に取り組み

市民会議に諮り方策を見出す

(答弁)

(質問)

○質問 不燃物、粗大ごみについて、現在の取り組みでは無駄が非常に多く経費も多くなっている。処理後の搬入先と料金体系について、十分チェックして委託契約を結ぶべきでは。

○市民部長 鴨島では不燃物、粗大ごみは不燃物として最終処分場で埋立処理をしている。西環境センターでは、プラスチック、発泡スチロール

やかに対処したい。

○質問 公民館使用料、ボランティア活動は無料に。

○答弁 予算組がされているボランティア活動には使用料が必要。

○質問 同和団体への補助、廃止すべきと思うが。

○答弁 今後は予算編成の中で十分検討したい。



川島美化センター内部

系は可燃物として中央広域環境施設組合へ搬入している。その他の不燃物粗大ごみは埋立ごみとして山城町にある民間の処理場へ搬入している。今後においては、不燃物、粗大ごみの処理後の搬入先と料金体系改善は、市民会議等々で十分協議をし、努力をしていきたい。

○再問 供用開始2年後のメンテナンスの費用の問題もあり、重要課題として真剣に市民と話し合い、経費削減、統廃合等吉野川市でできるすべての方法を市民とともに考えるべきである。鴨島と西環境センターでの処理経費について伺う。

○市民部長 鴨島と西環境センターでの処理経費

は、鴨島1億8,889万7,000円、西環境センターは、5億2,826万5,000円。この差

については、鴨島は現在焼却で処理しているが、西環境センターは中央広域環境センターでの処理をしているので、負担金として、2億8,000万円余り出している関係上、経費に差が出ている。ごみ減量化、ごみ資源化、ごみ処理システム化の分

岸田 秀樹 議員

防災監視カメラの増設は

追加設置は困難だがさらに検討

(答弁)

(質問)

○質問 イントラネット事業における防災監視カメラ及びネットの利用について、防災カメラ等が足りないことと提案したところ、柔軟に対応するとの答弁があったが、その後経過について伺う。

○総務部長 イントラ

科会で十分協議し、検討していききたい。

○質問 中央広域環境施設組合の一般廃棄物収集運搬使用車両で、12年以上過ぎた車両の対応について伺う。

○答弁 12年以上経過の車両は、古い順番に買い換えをしている。

ネット事業の防災監視カメラは、市内河川の内水面を見るところで、飯尾川は上流及び下流の二か所、江川、桑村川、学島川、ほたる川、岩屋谷川合計七か所に設置する予定である。増設要望については、6月21日に補助金が決定

され、9月22日には工事の指名競争入札、25日には仮契約、26日には議会の承認を得ているという状況である。補助事業の中で増設する場合、変更の理由を示し、大臣の承認が必要となるため、直接担当する部署の見解を聞く必要がある、松山の四国通信局へ行き、再協議した結果、現在監視カ

メラ七か所で申請しているため、追加する明確な理由が見当たらないということと、総務省の補助制度上のこともあり、追加設置は困難と考えている。

今後住民や防災関係者などの情報や被害の発生状況などを考慮して、改めて検討したいと考えている。



防災監視カメラ設置予定の江川

【その他の質問】

◎質問 中心市街地活性化法に基づくまちづくり請願書の取り扱い及び鴨島駅周辺のまちづくりの構想は。

○答弁 平成8年の鴨島中小商業活性化計画では、一部の地権者や商店主から理解が得られていない。関係者の決意があれば協力・検討する。

工藤 俊夫 議員

板野川島線の進捗は

開通に向け協力する

(質問)

(答弁)

◎質問 県道板野川島線は、徳島鴨島線開通の延長線上にある3、260メートルの道路である。工事費31億円のうち、平成5年から12年間で予算規模70%の進捗状況、順調にいけば5年程度で開通を見られる予定である。

が、いまだ32%、12名の地権者との交渉が残っている状況である。そこで市民の願いを県に対して強く要望すると同時に吉野川市としても、この12名の地権者に対し、川島土木事務所道路担当職員と協議しながら用地交渉に係わってはどうか。

道路工事は用地ができれば100%完成したといわれるが、ややもすれば用地交渉で行き詰まることも予想できる。

○建設部長 この道路は、鴨島町の知恵島から川島町の桑村までの区間をバイパス方式で順次整備を図ってきている。

全線開通を待ち望む市民のためにも、残りの用地を確保する必要がある

この事業の目的は、国



早期開通が望まれる県道板野川島線

道192号線のバイパス的な役目を果たす道路、国道318号線の交差点付近、JR徳島線と国道318号線の平面交差する周辺と鴨島町の中心市街地における交通渋滞の解消。地域の生活交通網の形成を図るため整備するものである。

現在の進捗状況は、地権者37名中25名が契約を

終えており、約68%の進捗率である。また、現在改良工事は国道192号線取り合い、麻名用水のボックス、堤防沿いの堤脚水路工事を施工しており、年明けには国道192号線の取り合いと国道318号線と徳島鴨島線の交差点工事を発注予定している。

市は、早期に完成が図

れるよう毎年県に対して要望を行っているところであるが、事業の推進には地権者を始め、周辺住民の方々の理解と協力が不可欠であることから、県に任すだけでなく、吉野川市としてもできる限り協力しなければならぬと考えている。

【その他の質問】

◎質問 市道の舗装は。

○答弁 まちづくりのための合併特例債が適当。

◎質問 天寿荘の民間移管後、西保育所の駐車場

増富義明 議員

全幼稚園で週5日延長保育をしては
保育ニーズに適切に対応する

(答弁)

(質問)

◎質問 市内の幼稚園では、本年度から、全幼稚園で週3日延長保育を実施しているが、最近の県内の他市町村の幼稚園の

としては。

○答弁 一時的に遊休地の有効利用は差し支えない。

◎質問 阿波中央橋の架け替えの協議は。

○答弁 すぐに阿波市長に申し入れをし協議中。

◎質問 危険校舎の山川中学校と川島中学校の体育館の早期着工は。

○答弁 教育委員会と市長部局で前向きに検討中。

状況を見ると、ほとんどの自治体で早くから週5日は完全に延長保育、預かり保育を実施している。時代のニーズ、共働きが



夜7時まで延長保育を行う許認可保育所

増える中、住民サービスの向上のためにも、早急に全幼稚園で延長保育を実施してはどうか。

○教育次長 幼稚園教育は、小学校以降の生活や学習の基盤の育成を行うものであり、幼児期にふさわしい生活を通して、意図的な教育目標を実現していくものだ。幼稚園の1日の教育時間については、幼児の心身の発達

の状況を考慮しつつ、幼児の教育時間の妥当性及び家庭や地域における生活の重要性を考慮して、4時間が標準となっていく。しかしながら、最近の幼児を取り巻く環境の変化、家庭や社会のニーズの多様化に伴い、職業等を持ちながらも幼稚園に子どもを通わせたいという保護者や地域の保育ニーズの拡大に対応した

延長保育や預かり保育等、運営の弾力化が言われてきている。

本市の幼稚園において、本年度から、2時までの延長保育をこれまでの2日から3日に増やし、実施をしている。今後、地域社会の実情や保護者の要請等を踏まえ、積極的に子育てを支援していく。延長保育の実施については、それぞれの幼稚園において、幼児の年齢や教育経験などの違い、地域の実態や保護者の要請により、実施日、時間等適切に対応していきたいと考えている。

◎再問 幼保一元化や子育て支援施設のあり方について内部的な勉強会を進めているという事だが、どこまで協議が進んでいるのか。

○第二助役 今般立ち上げた「子育て支援の市民会議」の中で詳しい論点を盛り込んで検討していく。

【その他の質問】

◎質問 汚水処理構想見直しの進捗状況は。

○答弁 現在最終段階に入っている。3月議会に報告する。

近久善博 議員

合併特例債を活用していくのか
計画的かつ慎重に利用していきたい

(答弁)

(質問)

◎質問 吉野川市は「世代を超えて夢紡ぐまち」を目指しているが、どのような事業に合併特例債

を活用していくのか。

○総務部長 19年度の当初予算向けのヒヤリング

を行なったところ、山川中学校校舎の改築、川島中学校の体育館、給食センター改築など順次必要に応じて計画していきたい。

◎再問 庁舎一本化に関し平成18年1月の総務委員会でも早急に取り組むべき、また庁舎特別委員会も3回目の委員会を数える。各部の部局もさらにスリム化し効率化に重点を置き早急に解決していくのか。

◎第一助役 合併特例債を活用して事業をすると70%が地方交付税として返ってくる。庁舎一本化にすることによって部とか課の縮小、廃止、統合などはやりやすくなる。これらは庁舎一本化する時に考えたい。

◎再々問 庁舎一本化に対しては行財政委員会の答申でもあるし、平成19年から25年までに職員も150人ほど退職してゆくと推測される。やはり

庁舎一本化は避けて通れないと思うがどうか。

◎市長 ハード事業を積

きたい。

藤原一正 議員

学校への教育委員会の指導は 実態を聞き対応する

(質問) (答弁)

極的に実施することは非常に難しいが真に必要な事業に対しては応えていきたい。

◎質問 いじめ等の問題行動への対応が遅れた学級、教師の学級運営が柔軟性を欠いている学校がある。教育委員会としてどういった指導をしているのか。

また、就学前の幼・保一元化等の実施については、幼稚園と保育所の交流の機会を増やせば良いと思われる。施設の統合についても、維持経費を削減して効率化を図れば、初期投資は費用対効果で十分賄えると思われる、それらの検討をすれば、あとはやる気があるかないかだけだと思うがどうか。

◎教育長 荒れている学校の有無については、例えば授業中立ち歩きする子どもがいる学校があり、そういった事への教育委員会の対応としては、まず実態を把握し、学校の対応について不足がある部分について案を出すかたちで指導するといった方法をとっている。

幼・保一元化については、幼稚園と保育所ではそれぞれの目的が違う等難しい問題もあるが、小学校へつないでいくという意味では同じと思われるので、双方のかわり方等も含めて考えていきたい。

【その他の質問】

◎質問 美郷の統廃合は中枝小学校への統合を再度協議してみては。

◎答弁 種野小学校への統合は地元の総意としての結果である。

◎答弁 19年度は不採択となったが、20年度には最優先で採択されることとなっている。

◎質問 なぜ吉野川市副市長定数条例だけを先に制定するのか。

◎答弁 早い段階からの準備作業が必要になってくるため。

◎質問 中山間総合整備事業吉野川西部地区の進捗状況は。



体育学習の小学生 (本文とは関係ありません)

特例債で改築予定の給食センター

市民のページ

冬瓜の話

山川町川田 原田 親光

冬瓜や 立木に熟れて

光る霜

夏食べるのに「冬瓜とはこれいかに」は長い間の疑問だった。健康食で生薬というのが作っていわれがよくわかった。立木に絡みついた冬瓜は伸びに伸びて3キロの大王がぶら下がる。遠くから見ると銀白色が夕日に映えて光る。たしかに、瓜の表面が霜のように見える。しかし、それは棘でガラスのように鋭くうっかりすると怪我をするが完熟のしるしで食べ頃だ。果肉は柔らかく水分がほとんどでのご越しによい歯の欠けた老人に適している。雪国では保存食となる。

冬瓜や 処で変わる

形と味

俳聖、芭蕉は旅の疲れを癒した冬瓜の句がある。

木から下がった形はひょうたん型で地を這ったのは丸い。1個料理すれば隣3軒配られる食材だ。もの言えぬ赤ん坊は「くれない」と指さしてせがむ。子どもたちは学校から帰るなり、その汁をご飯にぶっかけてガツガツと食べ遊びに走る。しかし、大戦で捕虜となった人は「旨くない」とそつ気がない。塩もなく水だけで煮ては恨みが深いのかも知れぬ。敗戦で満州から引き揚げた家族もまた同じ思いを告げた。コーリヤンの間を逃げて食べた味は思い出したくないようだ。「だから見たくない」と命を支えてくれた食べ物に言うのだ。食

冬瓜に 疲れを癒す

冬瓜に 願いかけ

「冬瓜の苗を上げよう

か」と言っても「うちには土地がない」と返事する。「空はあなたのもの」と言っても納得しない。

冬瓜や 縁に並べる

頭かな

冬瓜は野生的でやせた土地でも育つ。10年経つて芽が出たともいう。白

い産毛から浅葱色の実がまたたく間にフットボール大になる。その下を通る人は落ちてこないかと心配するのでスイカの網をかぶせて吊るす。柔らかいので少しでも傷つけるとすぐ腐る。縁に鎮座した冬瓜は日を浴びてどんどん大きくなり赤ん坊の頭ほどになる。家内は知人が来ると冬瓜汁を作って差し上げる。おでんのように温めるのでさらにおいしくなる。健康によいと信じているし、珍しいので人に勧める。それも、似た者夫婦といわれそうだ。



とうがん

クイズ

動物の名前で
なんと読むのでしょうか。

- | | |
|--------|---------|
| (1) 家鴨 | (5) 駱駝 |
| (2) 栗鼠 | (6) 蝙蝠 |
| (3) 海豹 | (7) 啄木鳥 |
| (4) 海豚 | (8) 犀 |

◎ (前回の解答) ①たんぽぽ ②ききょう

③しゃくなげ ④だいたい ⑤ごぼう ⑥さるすべり ⑦つくし ⑧いちじく

◎ 正解者の中から抽選で10名に記念品を進呈します。

◎ 応募要領／はがき、またはファックスに答えと住所、氏名、年齢、電話番号を明記の上、議事事務局へお送りください。

◎ 送り先／〒七七六―八六一―
吉野川市鴨島町鴨島一―五一一

☎〇八八三―二二―二二四二
吉野川市議事事務局

◎ 締め切り日／平成十九年 四月十日

チョットひと言

☆老化防止に良いかな?…と思ひ挑戦。辞典を使ってやっと答がわかりました。

(川島町 亀井さん)
☆入居者と職員一緒に考えました。次のクイズも楽しみにしています。(美郷 上畑さん)

平成18年12月議会定例会

議案の
審議から

日程：平成18年12月5日～12月25日

12月定例会では、条例関係案8件、決算認定10件、予算案7件、人事案1件、指定管理者の指定17件などが提案され、原案どおり可決・承認されました。

総務常任委員会

条例制定

▼廃棄物の処理及び清掃に関する条例の一部改正

◎北川麦委員 「廃棄物の所有権は、本市に帰属するものとする。」とあるが、市民が金属缶の中に金品を入れていて、誤って資源ゴミとして出した場合、その所有権等処理についてのように行なうのか。

○答弁 市民から出された資源ゴミは、吉野川市のものであると明記したものであるが、廃棄するつもりがなかったものを間違えてゴミと一緒に出

してしまった場合、客観的にみて判断すれば、市民の所有権は離れていないという解釈もできる。そういう取得物があつた場合、当然警察に届けることとなるが、取得物が見つかった周辺住民にもそのことを周知したい。

◇異義なしで可と決定

補正予算

▼平成18年度一般会計関係分

◎北川麦委員 市町村合併特別交付金が減額されているが、山川環境センターを取り壊す工事について交付金を申請し認可を受けていたものの減額か。また、この交付金については期限と金額が決



解体中の山川環境センター

まっていると思うが、一度返上しても次の事業に使えるのか。

○答弁 山川環境センターの解体撤去というところで、交付金として県の補助をもらっている。合併特別交付金は、県から7億円、国から4億5千万円くることとなっている。県予算の7億円の内、特にこの解体事業を認めてもらい予算化していたが、使わなくなった分を今回減額するものだ。使える期限は、通常5年であったが、市長会を通じ県に陳情し、特別交付金を市町村振興基金として無利子で10年間に限り借り受けできることとなった。それにより、期間を10年に延ばし、特別交付金に振り替えて県が無利

子で面倒みてくれることとなった。

◎中山郁子委員 95台のパソコンを新しくするが、古いパソコンを学童保育の子どもたちのゲーム用として回してもらえないか。

○答弁 個人情報が入らないような方を漏れないような方を講じて、何台かは期待にそえるようにしたい。

◇異義なしで可と決定

広域連合の設立

▼徳島県後期高齢者医療

◎北川麦委員 後期高齢者とはどういう人なのか。連合議員まで本市から派遣するわけであるが、この設立でどこがどう変わるのか。

○答弁 後期高齢者とは75才以上の方が対象となる。後期高齢者の医療制度は、現行の老人保険制度を廃止し、75歳以上を対象に新しい制度として平成2008年度に創設される。財源としては、高齢者の窓口負担、保険料1割、公費5割、拠出金4割という財源で賄い、財政運営については、都

文教厚生常任委員会

補正予算

▼平成18年度一般会計関係分

◎河野利英委員 山川中学校の耐力度調査の結果について伺いたい。また、幼稚園費に臨時職員の賃金が補正されているが、どういう理由で雇われているのか。

○答弁 耐力度調査の結果について、危険校舎の認定を受けるために実施するのが目的である。認定される条件はクリアしているが、県教委の担当と結果について協議したところ、国の方針として、補助金の新たな改築の枠が非常に狭められているというので、危険校舎の認定についても

厳しくなっている。前回も、内部コンクリートを4か所抜いて調べたが、もっと詳しい内容を調べる必要があるということで、外部のコンクリートも抜いて、現在その結果を待っていると、結果に基づいて危険校舎の認定を行う予定。

県との協議の中で、従来どおりの方法であってもいいが、国の方針が変わってきているので、より確実に行いたいということで現在進めている。

幼稚園の臨時職員について、これは障害児の園児に対する加配と、山川で年少保育が開始されるので、その年少児の保育にあたる職員を配置している。

◎枝澤幹太委員 給食センターの新しく購入した



耐震度調査を実施した山川中学校

フライヤーについて、施設が新しくなった際も使えるのか。また、あり方検討委員会で調査費をつけたと聞いているが、その結果について伺いたい。

は、山川町で現在進行しようとしている所とは別の事業なのか。

○答弁 ドライ使用で、新しい施設でも使えるものを購入している。

○答弁 中山間地域等直接支払事業は、美郷と山川の山間地の急傾斜地域で反あたり個人にお金が交付される事業であり、今回の一般質問でも答弁した山川町での中山間地域整備事業とは別の事業である。

◇異義なしで可と決定

指定管理者の指定

▽ぶどう総合管理センター

▽山川農産物加工所

▽梅選果場

▽八坂畜産団地施設

▽ふいご温泉

▽ヘルスランド美郷

▽川島城の指定管理者

▽こつつの里民芸館

▽美郷物産館

▽江川・鴨島公園

◎高木純委員

①江川・鴨島公園の指定

管理委託金が474万円となった経緯は。

②指定管理者となるにあたり、従来の財団法人

や株式会社ヘルスランド美郷やふいご温泉

等の従業員の身分は約束できているのか。身分

については、市に責

任があると思うがどうか。

③ふいご温泉について、

現在市が株をもって

いるが、指定管理者と

することでどうなるのか。

④財団法人川島城協会は

保養センター上桜と川島城の両方を管理運営

しているが、今回の指定管理者の指定については、川島城だけでは、川島城だけで、保養センター上桜については引き続き川島城協会の管理運営することなのか。

○答弁 江川・鴨島公園の委託料は、市が指定管理へ出すために基準額を514万円として定め、それにより公募を受けた中で業務内容等審査した結果474万円となった。財団法人や株式会社等の指定管理とするにあたっての従来の職員の身分については、一応その会社が解散する時に解雇となるが、そういった状況も従業員には話したうえで、市の対応として例えばふいご温泉では、続いて雇ってもらえるような話もできており、その他については、再就職希望があるならば、できる限り



指定管理者契約がされた江川・鴨島公園

はどのように変わったのか。また、指定管理者を引き続き同じ所が請けるのならば、市有財産の建物等についても処分した方が、市としては固定資産税が入ってくる等有利ではないのか。また、払い下げ等処分は可能なのか。

○答弁 指定管理者への移行により、指定管理者からも現在、市民サービスの向上のためにも運営時間や料金等の見直しをしたいとの話はきているのだが、今回の議決をいただいてから細かい内容は詰めていかなければならない。民間が管理運営することで、従来より市民サービスの向上すると思われるし、今年度の経営状況についても従業員等の努力等により多少改善されているといった例は見られている。

評価制度の導入については、市としても監視する必要があり、現在も事業報告等を提出してもらうようになってきている。市有財産の建物等を手放すことについては、19年4月からは公募による指定管理者として進めて

▼平成18年度一般会計(関係分)
◎後藤田哲夫委員 中山間地域等直接支払事業と

補正予算

産業建設常任委員会

◇異義なしで可と決定

また、今回の江川・鴨島公園は指定の期間が3年となっているが、他の指定管理としている向麻山公園やバンブーパークと一度足並みをそろえるために、期間を変更し、評価制度を取り入れつつ、その間に市の公園施設等のあり方の方向性を検討してはどうか。

○答弁 ぶどう総合管理センター等の施設については、指摘どおり特定の団体に決まっているため、課内でもそういった協議をしている。一応市の方針として指名による場合は1年としているが、施設ごとの内容を見て今後

は地域の団体へ移管していく方向も考えていきたい。また、今回の1年間についてはこのままの形でお願いし、その間に検討したいと思う。

総務部局とも協議しながら市の方向性を今後考えていきたいと思う。指定管理期間の足並みをそろえることは、指定管理者にも事業計画書を立ててもらい、ある程度の契約協定の安定性も考えて3年ということで募集しており、にわかに期間を変更してとなるとなかなかスムーズにいかないかという気もするが、公園等についてはどういう管理が適正かということを議論して見直すタイミングを持たなければならぬと考える。

◇異義なしで可と決定

計画変更

▽土地改良事業計画

◎玉水好夫委員 牛島北の農道2号排水路について、周辺には住宅もあるため、安全面に配慮してフタ付きのものにできないか。

○答弁 農道事業のため全体をフタを付けること

はできない。安全面にも配慮しつつ一部については検討したい。

◇異義なしで可と決定

決算特別委員会

決算認定

▽平成17年度一般会計

◎工藤俊夫委員 社会福祉費及び公営住宅使用料、また市税等についても不納欠損額が前年度より増えているようであるが、徴収面でどういふふうの努力しているのか伺いたい。

○答弁 滞納者については直接訪問し、特別な事情がある場合については綿密な納税相談も行って、分割納税等を通じて納税を促すとともに、高額な滞納者や、納税に対して誠意の見られない、いわゆる悪質滞納者に対しては、給与や預金など資産等の調査を実施するなど、それぞれの内容に即した様々な滞納処分措置を講じて、不納欠損額の削減に務めている。今後も、数多く面談をするなど、ねばり強く、かつ根気よく納税相談等を行い徴収

に当たりたい。

▽平成17年度公衆温泉浴場事業特別会計

◎工藤俊夫委員 温泉使用料について、かなり黒字であるようなので、高齢者や子どもの入浴料をもっと少し安くしてどうか。特に子どもは、小さい時から温泉に親しみをもってもらいたいと思うが、そういう考えはないか。

○答弁 温泉使用料については現在のところ変更する考えはないが、他の温泉施設と均衡をとる必要もあり、検討したい。

◎高木純委員 単年度では繰越金もあって100万円余りの黒字となっている。しかし、以前と比べ利益幅が減っているように見えるが、その点説明願いたい。

○答弁 毎年黒字となっており、その積み重ねが4千万円余りの繰越金となっている。本年度は約170万円の黒字となっており、昨年と比べ50万円ほど黒字幅が減ってきている。これは、施設が古くなってきている

ため修繕費等が必要となってきたりその分黒字幅が減ってきている。

▽川島財産区特別会計

◎後藤田哲夫委員 合併前から解散するといいなからそのままになっている。あまり内容もなく、できるだけ解散の方向で進められないか。

○答弁 財産区の中に神社があると聞いているが、その敷地が財産区すべてのものであれば解散も可能である。合併前にもいろいろ議論されたようだが、神社の財産をどうするか、という部分が一番ポイントになってくると思われる。今後よく検討したい。

◇以上、異義なしで認定



鴨島温泉かもの湯

本 会 議

本会議の最終日には、各常任委員会及び特別委員会が審議された内容について、各委員長が報告が行なわれました。報告は、付託案件すべて可及び認定とするものでした。各委員長の報告のとおり本会議でも可決・認定されました。

◎岡田光男議員 「平成17年度の主要な施策の成果」の報告書に基づいて質疑をする。市の巡回バス運転事業について、運行時刻の改善などどのような効果があつたか。また、利用者が少なくても、今後とも事業を進めていく必要があると考えるが。

公共下水道の17年度工事に対する、対象となる処理戸数とつなぎ込み戸数について伺う。

下水道事業は、これから山川町、川島町を中心に本格的に進むと考えるが、公債費や一般会計からの繰入金の推移は。

○答弁 巡回バスの利用状況は、1年間で2,840人。1日平均では11・64人、1便平均では0・73人の利用状況となっている。運営経費は、初期整備費として、2台のバス購入費など約650万円。1年間の運行経費は約536万円となっている。この事業は2年間の試行という形を取っているが、交通弱者等を救済する必要な役割を示していると思う。

公共下水道の17年度における対象処理戸数は、5,838戸で、つなぎ込み戸数は3,989戸となっている。

平成17年度決算における下水道事業特別会計の公債費は、約8億円。繰入金は約9億円となっている。

今後の推移見込みは、公共下水道では緩やかに増加しながら、平成29年

度にピークの7億円、その後は徐々に減少していく見込み。また、特定環境保全公共下水道事業では、事業の推移により毎年2,000万円程度増加していき、平成29年度に約3億円となる見込み。そして、農業集落排水事業は微増で推移し、平成23年度に1億900万円のピークとなり、その後は徐々に減少していく予定である。

一般会計からの繰入金、公債費が毎年2,000万円ずつ増加していくため、繰入金も同様に増加していき、平成29年度にはピークの約11億3,000万円程度になり、平成17年度決算より約2億2,000万円程度増加するのではないかと考えられる。現在、使用料収入は1億7,262万3,000円となっているが、今後供用開始地区でのつなぎ込み促進等により使用料の増収を図り、一般会計からの繰入金金の抑制に努めていかなければならないと考えている。

◎再問 下水道の未加入世帯への対応は、「自治会に説明しながら接続を促す」とのことだが、加入は進んでいない。加入しない原因を探りメスを入れる必要があると思うが。

庁舎検討特別委員会中間報告

◎答弁 今後、より一層加入促進に努める決意。行動を見守ってもらいたい。

当委員会では、合併後今日までの分庁舎方式のまま行政執行を行なうのか。財政難の中での人件費削減、団塊の世代の大量退職、事務の効率化等を考え、庁舎を現吉野川市庁舎（鴨島町）へ一本化を図るのかを審議してきた。

12月の委員会で、大筋で現吉野川市庁舎に一本化し、用地につ

いては庁舎東西にある県有地のどちらかを、県からできるだけ安価で譲り受ける方向で検討することが話し合われた。市民の皆さんに不便を掛けないための支所機能の充実など、クリアしなければならぬ問題もたくさんあるが、合併特例債の活用を予定している。3月定例会までに、委員会での最終判断が必要だ」との意見もあった。（委員の意見概要）



庁舎東側県有地

市民の皆さんの声を掲載

規定 | 原稿用紙三枚以内（四〇〇字詰）住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記 | 締め切り | 平成十九年四月十日（消印有効）

●投稿多数等で掲載できない場合は、ご容赦ください。校正等は、吉野川市議会広報特別委員会で行います。

あて先 | 〒七七六―八六一― 吉野川市鴨島町鴨島一―五番地一 吉野川市議会 広報特別委員会「市民の声」係

TEL (〇八八三)二二二―二二四一
FAX (〇八八三)二二二―二二四二

市政についての苦言やアイデア、趣味や人生観など多岐に渡って文章を募集します。ファックスでも結構です。

募集要項

表紙の写真募集

テーマ 吉野川市で撮影した季節の風景や祭り、行事など。

規定 モノクロ及びカラープリント2L判～四切・W四切組写真も可（3点まで）住所・氏名・電話番号・題名を明記。

原稿料 5,000円

締め切り 平成19年4月10日（消印有効）発行は5月です。季節感のあるものをお願いします。

その他 作品の返却は行いません。採用された作品の使用及びトリミングなど加工については、吉野川市議会広報特別委員会に帰属することをご了承ください。

応募先 〒776-8611 吉野川市鴨島町鴨島115番地1 吉野川市議会広報特別委員会「表紙写真」係 TEL(0883)22-2241

あとがき

平成16年10月1日徳島県内第1号として吉野川市が誕生し、夢いっぱい吉野川丸に乗せスタートした。その当時の目玉として合併4か町村の機能的、効率的な役割分担を果たしながら、一体的均衡のとれた発展が目的の合併でスタートされた。山川川田地区、美郷地区において、中山間地域総合整備事業が大きな目玉となり地元農業委員10名、土地改良区代表4名を選出し耕地事業研修会、現地調査、事業説明会等が進められ平成18年10月26日川島農林事務所から新規採択の内諾があり地元報告されたが、しかし、11月26日にはこの事業はゼロベースで対応する方針が決定された。

これまでの経過、地元説明会、用地交渉等に努力された方々には、理解が得られるのだろうか疑問に思うが、20年度採択に向け期待する。

後藤田哲夫